

社会教育委員の会議 会議概要

1	審議会名	令和5年度第3回安曇野市社会教育委員の会議
2	日 時	令和6年3月25日(月) 午後3時から4時30分まで
3	会 場	安曇野市役所 本庁舎大会議室
4	出 席 者	猿田みさ子委員(議長)、丸山明男委員(副議長)、高橋みち子委員、鳥羽將司委員、赤羽敦子委員、荻原義重委員、筒井年恵委員、柿本豊委員、池田安宏委員、伊藤政江委員、浅見郁子委員、三澤正彦委員
5	市側出席者	橋渡教育長、生涯学習課二木課長、文化課三澤課長、生涯学習課大蔵係長、生涯学習課吉田副主幹、生涯学習課米倉補佐、生涯学習課臼井係長、生涯学習課小穴係長、生涯学習課遠藤係長、子ども支援課古畑係長、スポーツ推進課小平係長、文化課竹中補佐、文化課佐野係長、文化課堀係長、文化課逸見係長、文化課奈良澤係長、小笠原
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和6年3月29日

協 議 事 項 等

会議概要

- 開 会 生涯学習課二木課長
- あいさつ 矢口教育部長
- 令和5年度事業報告について《事務局説明》

【委員】

4月から始まる児童クラブの件だが、6年生まで全部受け入れてスタートできるのか。補助をしてくれる方が、まだきちんと決まっていないと聞いたが、あと1週間後ぐらいで新しい児童クラブが始まる訳だが、その進捗状況はどうなっているのか伺いたい。

【事務局】

児童クラブは、まだ一部の小学校では6年生までは叶っていないが、この4月から多くの小学校で6年生までの受け入れ拡大が始まる。

社会福祉協議会とも連携を取り、この春に向けて整備・調整をしてきたが、想定以上の申し込みがあったところもあり、6年生までに拡大すること以前に、年々児童クラブの人数が増加している。この春で児童クラブの職員が15名足りないという計算があったが、何とかかなりそうだという報告を受けている。

【委員】

まず感想だが、社会教育委員の研修について、有意義な研修ができたと思っている。近隣の市町村の方から「えんぱーくに行ってるんだよ」というような話を聞いていたが、『えんぱーく塩尻』を見学して、「行きやすい場所なんだな」と思った。安曇野市の職員も交流派遣されていたので、ぜひまた安曇野市の事業に生かしてもらえれば、住民が行きやすい施設に、安曇野市の施設もなっていくんじゃないかと思った。

質問の1点目は、学校開放講座についてだが、実施している学校の受け止め方が押し付けになっていないかと心配になった。主体的に自主的に各学校が受け止めて授業を進めていたかどうか、その辺のところを聞きたい。

【事務局】

学校開放講座については、市内の小中学校、高校にこちらからお願いして、手を挙げた学校にやっただけではない。こちらからぜひ願するという形ではないので、快く開催いただいているものと思っている。

【委員】

それならば安心だが、教員の働き方の問題等々言われている中で、学校を地域の方に開放して、先生方の技能、知識を伝えていただくのは大変ありがたいが、負担にならないように推進をお願いしたい。

人権教育に係る学社連携についてだが、ここには豊科地域が載っているが、他の地域ではどのように学社連携がされているのかわからない。

企業人権教育推進協議会が「人権のつどい」の担当をしていたというか、主催の方に回ったということについて、その経緯がわかれば教えていただければと思う。

【事務局】

学社連携事業について、今年度は豊科地域の講演会が該当しているが、それ以外にも明科のヒューマン講演会、他の地域での人権教育啓発学習会等地域ごとに人権の学習会を開催している。

「人権のつどい」自体は市の主催事業で、その中の講演会に企業人権の方が関わって企業人権の研修

会を兼ねているというものである。

【委員】

もっと人権について、きちんと市や行政全体が関わって推進すべきものだと思う。「平和と人権のつどい」をやっていたが、それが縮小して、企業人権の方にくっつけてきたような感じがしたので疑問に感じた。

【事務局】

申し訳ないが、令和6年度についても同様に「人権のつどい」の中で企業人権の研修会を兼ねて開催を予定している。

今後については、今の意見をもとに担当部署とも検討させていただきたい。

【委員】

市民大学講座、それから安曇野アカデミーというふうに入力を入れて活動されている講座等が書かれているが、他市町村の文化講座の話聞いても、こんなふうに行っているところはなかなかないとのことで、少し鼻高々になった。

今年の安曇野アカデミーは大河小説に関わって、講演の題材を組んだお陰でとても参加者が多かったと話を聞いている。私も自分でも出て良かったということもあるが、振り返ってみると数字的には、例えば令和3年度の安曇野アカデミーあたりは参加者が100人ちょっと位だったと思う。それがこういう高い数字になっているとは、やはりタイミングもあったかと思うし、担当者のそういう見込みというか、時期にあったものを選んだということが数字にも反映してきているのではないかと思う。

安曇野市では各地区の宝等も、今、冊子になったりして出ているので、ぜひそういう点で郷土の宝とか活動、歴史等についても力を入れていっていただければありがたいと思う。

【委員】

安曇野アカデミーは参加者も多かったし、魅力的な講座だと思う。

市民大学講座の方だが、アンケート結果では「大変よかった」それから「良かった」と思う割合は90%ということで、大変好評だったと思う。ただ参加者数は延べ人数が194人ということで、1回にしてみれば約50人ぐらいだったのかなと思う。また来年度も魅力的なテーマで取り組んで、広報とかホームページにも掲載されているが、ぜひその他のPR活動もして行ってほしいと思う。

今年度、Linkがリニューアルされて、とても魅力的なLinkに生まれ変わった。年2回の発行だが、中身が充実していて魅力的な内容だったと思う。手にする方も増えてきているような気もして、私の周りの人からも「Link見たよ」という意見をよく聞くようになった。作成するのは大変かと思うが、2回ともあれほど充実したものでいいのかと、その辺が心配になった。

【事務局】

市民大学講座については、まず魅力的な講座を担当の先生にお願いし、そのPR等に務めたいと思う。

Linkについても好評の意見をいただき、ありがたいと思う。今、春夏号を制作中で、どちらかというところと前回の秋冬号が大幅改定ということであったが、春夏はその季節や時期に合わせたバージョンアップという形になっているので、前回のものと比べると大幅に変わるようなところはない。情報を適宜更新していくというものになるので、年2回の発行を継続したい。

【委員】

いろいろ苦労して、企画運営いただき活気溢れる講座になったことに感謝する。

日本語ボランティアきっかけ講座だが、きっかけ講座ではボランティアスタッフとして携わってみたいという方が多く参加したということで、これも良いことではないかと思う。安曇野市の外国籍の方の人口を調べてみたら1,285人いて、どんどん増えてきているということで、こういう講座がきっかけで、今後日本語教室が行われていくことを期待している。

企業人権教育推進協議会の講演会で湯本さんの話を伺った。湯本さんの人生の失敗談を元に語られたもので、不登校・引きこもりの子どもにどう接し、どう巣立ちを手助けしていけばいいか、教育の根本に関わる話で、良い方を選んでいただけたと感謝している。

Linkについて、ぜひとも学校等の地域連携という意味で小中高、全学校にも配布をお願いしたい。

二十歳の集いについてだが、実行委員や参加者も一様に満足感も得られたということで、良いことだと思うが、主催した市の担当としてANCアリーナでの開催についてどういう感想なのかお聞きしたい。

【事務局】

二十歳の集いのANCアリーナでの開催については、今までずっと行ってきたサンモリッツの会場と比べると、正直一長一短がある。ただANCアリーナは市の施設ということで、ある程度自由が利くというところがあるので、来年度以降もANCアリーナで開催を予定している。サンモリッツの1番の良いところは、飲食等も可能だということである。ANCは不可能だが、飲食を伴うような交流会の要望もないので、ANCアリーナで今後も継続を予定している。

【委員】

市の方でいろいろなスポーツや子ども向けの活動を例年やっているが、地域の住民と子どもとの関わりの場を作っていくのは、やはり公民館辺りが中心になってやっていかないといけないのではないかと、いうふうに考えている。今、子どもの問題がクローズアップされてきているけれども、やはり地域全員が本当に子どもたちに温かい目を向ける、そういう地域になっていかなくてはいけないと思うので、ぜひ

ひ令和5年度に取り組んだ夏休みの体験講座のようなものを、明科も含めて地域全員との連携の中で実現していかれることを考えていきたい。

【委員】

二十歳の集いの予算額と決算見込みに100万円近く違いがある。支出がないということで、何か理由がわかれば教えていただきたい。

スポーツ推進の関係で、ハーフマラソンの契約の記載がどこにあるのか、教えていただきたい。

芸術文化の関係で、中高生が芸大の学生から実際に指導を受けることがあるが、合唱や声楽の関係はどうなっているのか。

【事務局】

二十歳の集いの予算額と決算見込みの違いは大きく分けて2点ある。1点は会場の設営について、入札で業者を設定した中で、昨年度の業者と違う業者がかなりの安価で落札をされたということでの差額である。あともう1点は、当初は今まで二十歳の集いの参加者にはタンブラーや時計などの記念品を渡していたが、今年度の実行委員から物よりも何か記憶に残るようなものということで記念冊子の作成という提案があり、今年は記念冊子を作成して配った。その関係で必要部数もオーダーで参加者だけということで余分に作る必要がなく、単価も若干安く上がったため、これだけの額の減ということとなった。

【事務局】

令和5年度の事業報告のところに確かにハーフマラソンについての表記がなかった。令和6年度の事業計画には載っているが、また事業報告を改めて別紙で配りたい。

【事務局】

合唱については、芸術系大学との連携とか別の取り組みは現在行っていない。検討したいと思う。唯一、合唱の関係で文化課が事業を行っているのは、文化団体補助事業のところの早春賦音楽祭という事業である。小中学校の重唱コンクールで入賞した優秀校の皆さんに音楽祭に出演してもらっている。

【委員】

1点目は安曇野子ども駅伝大会について、3月23日に実施する予定だったが、前日は雨や雪も降ったので実施されたのかどうかを伺いたいのと、その評価はどうだったか。

2点目は市の新しい博物館構想について、博物館を市はぜひ作りたいのかどうかということを知りたい。予算の関係も色々あると思うので、方向づけがどういう形になって行きそうなのか聞きたい。

【事務局】

3月23日の子ども駅伝大会は、天候に恵まれず駅伝大会自体は行わなかった。ただこの大会は、市町村対抗駅伝大会の予選会を兼ねていたので、タイムトライアルとして記録会のみ開催し、申し込み90名中60名のお子さんが参加した。そして、対抗駅伝の選考会も既に行い、選出も済んでいる。

【事務局】

現在、安曇野市新市立博物館整備方針検討委員会を発足させ、その規模や内容については今後検討していくところである。市は様々な文化博物館を抱えており、各施設とも老朽化して、埋蔵文化財についても増える一方で、これをどう次の世代に伝えるかということも、課題となっている。前向きに整備していくということを考えていきたいと思っているが、細かいところは今後の委員会の中で詰めていきたいと考えている。

【委員】

放課後子ども教室の関係で、コーディネーター、教育活動のサポーターを配置し、安全を図るとあるが、この安全を図るには外部からの侵入者に対する子ども自身の安全とともに、災害の観点から、万一の場合の避難対策が必要である。どのように担当者に指導しているか伺いたい。現実的にいつ災害が発生するか分からないので、実際に動ける形なのか、過去にそういったことへの訓練をしていたのか教えていただきたい。

【事務局】

放課後子ども教室の安全を図ることについて、防災、災害の場合については、学校施設を使って行っている事業なので、基本的には学校の避難経路に沿って動くようにしている。年度の初めにスタッフの皆さんに確認をしていただくようにはなっているが、実のところは訓練というものをやっているかどうかということは把握をしていない。新年度はそこを徹底して、児童が集まる前に避難経路の確認、できることなら訓練をしていかなければならないと思っている。

4 令和6年度事業計画について《事務局説明》

【委員】

児童館整備事業の中で、令和6年度は豊科児童館の整備ということで、解体されて新築をされるということだが、今までここを利用されていた方々の支援をどういうふうに対応するのかお聞きしたい。

2点目は、コミュニティスクール事業を活発化する必要があると思うので、他の委員の意見があったらお願いしたい。

【委員】

コミュニティスクール事業の関連だが、令和5年度については豊科と穂高が地域事業のところに記載があり、全市的事业の方は三郷、堀金、明科。令和6年度の方では豊科は地域事業として記載があり、

その他の地域については全市的事業となっている。これは何か考えの変化があったのかどうかお尋ねしたい。

【事務局】

最初にお尋ねの豊科中央児童館の整備の間の利用者については、児童館の向かい側の豊科介護予防事業実施施設と老人保健センターの建物の1室を借りて、規模が小さくなってしまいが引き続き豊科中央児童館として仮設で実施する。また、この機会に市内にある他の8つある児童館をぜひ利用してほしいと呼びかけもしている。

【事務局】

コミュニティスクールの事業については、各公民館からの資料の整理ができていなくて大変申し訳ないが、基本的には地域事業になる。

コミュニティスクール事業で社会教育委員の意見をいただく機会があると大変ありがたいが、実を言うと社会教育委員が入っているのは穂高だけかと思う。コミュニティスクールについて社会教育委員から意見をいただくのは、こういった会議の場でいただくというのが現状である。

【委員】

これから先の未来で、安曇野市の社会教育委員のあり方、委員会のあり方、それから地域との繋がりをよく考えていく必要があると思った。

【委員】

コミュニティスクールの件で、各地区それぞれに活動されている内容は違うと思うが、私も多少関わっている関係で感じていることは、ボランティアが募集されて大勢の方が参加されているということ。試行錯誤で行っていると思うが、人の流れとか、どういう人たちが動いているのかということも公民館でも把握して欲しい。それからボランティア保険もかけていただきたい。楽しく安全にボランティアに参加できるのは、保障があった方がいいと思うので、ぜひかけていただきたいと思う。要望である。

【委員】

児童館の見守りサポーターについて伺いたい。これは社協でボランティア募集するのか、子ども家庭支援課で募集するのか。

【事務局】

児童館の運営は、社会福祉協議会に指定管理でお願いしているので、どのようにということも全て社会福祉協議会で決めている。

【委員】

先ほど皆さんが言われたように、とても良い講座を聞いたときに、とても良かったという感想を持つが、それを皆さんに知らせる方法がない。それはとても残念だとも思っている。

【委員】

明科だけではなく他の地区も同じだと思うが、だんだん地域住民が高齢化してきて、いろいろな公民館活動、地区の公民館活動などにも参加できる方も少なくなっていると思う。そういう中で、運動会は本当にそれぞれの地区の一大イベントだったと思うが、コロナで中断したり、工夫しながらやってきている地区もあった。6年度の計画に目を通すと、明科と穂高を除いて市民運動会を計画の中に入れてある。5年度の三郷公民館の報告で「市民運動会」について、そこに「コロナ以前までの踏襲ではなく、参加方法や種目の工夫を行い1,000人を超える参加があった」という評価も記載されていた。これを見たときに、確かに運動会を準備して実施することは本当に大変だが、種目を工夫することによって、子どもからお年寄りまで、みんなが楽しめる中身になると思うので、運動会という形で実施できる場所は取り組んでいていただきたいと思う。

【議長】

地域の公民館の関係者の方からご意見いただければ助かる。

【事務局】

運動会については、この2月、3月に豊科地域の公民館長と体育部長に話をし、本年度は実施する方向で計画している。また、住民との交流を目的にした種目を検討している。

【事務局】

穂高地域にあっては、6月18日にソフトボール、9人制バレーボールを開催した。また、11月19日にはソフトバレーボール大会を開催した。5年経た球技の再開ということで、非常に関係者を集めるのに苦労したが、一度集まってみると5年前以上の熱を帯び、穂高会館、体育館では連日令和6年度に向けて練習しているという声をよく聞く。

【事務局】

三郷公民館では5年ぶりの開催ということで、コロナ以前までの踏襲ではなく、具体的には、いわゆる地区公民館対抗という方式をやめたということである。参加者をそれぞれの地区公民館の体育部長を中心に募集してやっていたが、それが負担だという意見がかなり多かった。それを踏まえ、地区公民館対抗ではなく、参加できる方に参加してもらうということで、確かに地区公民館には協力をいただいたが、それ以外で自由に申し込みができるように、三郷公民館に申込用紙を作り、直接申し込むことも可能にした。また種目も地区公民館単位ではないので、本当に出られる方、可能な方に出ていただいた。

それでもこちらで想定した参加者数にほぼなり、結果的に参加者1,000人、見学者を含めて大体1,300人の参加であった。また、種目もこうしたらいいというような意見があったので、来年度実施する際にまた種目の方も考えていきたい。

【事務局】

堀金地域は令和5年度運動会をやる予定だったが、天候が良くなかったということで中止した。令和4年度については堀金地域では運動会を行った。また来年度も一応やる予定ではあるが、地区の役員から運動会そのものをやる意味があるのかという意見が出てきている状況である。ただ、我々としては、運動会をやることによって、地域の交流、関わりができるというふうを考えているので、形がだんだん変わっていくかもしれないが、運動会は続けていきたいと考えている。

【事務局】

明科地域の運動会については、昨年まで中止で、今年度はロゲイニング大会を実施した。今回も地区公民館長にアンケートを取ったところ、運動会を続けた方がいいというような意見は21公民館中2件だった。私が20年以上前に公民館で勤務していた時、その当時の体育主任の方が非常に熱心で、辞めたいといった意見もあるが、やはり辞めてしまうと復活できないからということですとずっと続けてきた経緯がある。運動会に参加して、地域へ戻っていろいろなことを言われるとか、競技性が上がってくると非常にメンバーがやりにくくなるということもある。他の球技も昔はバレーボールをやっていたが、ソフトバレーになって、ワンバウンドになって、ワンバウンドも競技性も上がってきて、サーブが怖いというようなことで、また別の事業を考える。そんな繰り返しをしてくれている。6年度については、運動会の代替事業としてロゲイニングを計画しているが、今後他の事業も考えていきたい。

【委員】

スポーツ大使事業で、有森選手と篠原選手の予算づけがしてあるが、具体的にはどんな助言・協力なのか。

【事務局】

現段階では篠原さんのマネージャーの方と話を詰めている段階なので、いま具体的に何ができると話ができないのが非常に残念である。柔道だけにこだわらず、スポーツを楽しんでもらう、スポーツが苦手な人がスポーツをちょっとやってみようかなと思うようなイベントのところに来てもらうとか、あと体力測定とかのときに来ていただいたお客さんに檄を飛ばしてもらうとか、そういうような形でのアプローチも考えてはいる。有森さんについては、従来通りには思うが、そこも色々考えていこうとは思っている。

【委員】

出来たら、各企業、スポーツ団体に有森さんと篠原さんにどういうバックアップをしてもらいたいのか、どういう理由で参加してもらいたいとか、そういう呼ぶ側の意見も確認していただきたいと思う。

【事務局】

こちらで話を聞けるというスポーツ協会の団体とかに限られてしまが、そういった形で調査をかけることは可能なので、また来年度行っていきたい。

【委員】

安曇野市のホームページにスポーツ大使の2人の名前を出して、この2人と共に何かやりたいことはあるとか、そういうことを募集してもらえればと思う。

【事務局】

来年度に向けて課内で打ち合わせさせていただく。

【委員】

事業報告のところでは人権教育指導員の条件の見直しをしていただいたということでありがたい。

関係してだが、市でいろんな規則があると思うが、例えば、傍聴する場合に杖の持ち込みはいけなとか、あるいは議員の杖についてはどうするかとか、そういったようなことがあるかと思う。自分自身が白杖のある家に育ったので、杖を持ち込むことは、視覚障がい者にとっては当たり前のことであって、これから高齢社会が進む中で、杖だとかそういったものは必要なものであると思う。安曇野市の場合、多分まだそのへんの見直しがされていないと思うので、人権教育を担当する部署として、そういったことを問いかけていただければと思う。

中学生を対象としたスポーツ教室を開いていただくことはありがたいが、予算関係で、他競技とバランスは取れるのかと心配する。事業をスタートするときには、議員からも税金を使ってやるのだからしっかりと検証させていただくというような意見をいただいた。ここにきて、また予算が増えていると思うが、その辺のバランスの関係が心配になっているので何か考えがあれば聞きたい。

公民館関係の情報については、広報あづみのから情報を得ることが多い。広報あづみのが大変カラフルになったが、それが非常に見難い、色の使い方の問題だと思う。まだまだ紙に頼ることが多いので、見やすい、疲れにくい、そんな紙面にさせていただければありがたいと思う。

【事務局】

中学生のスポーツ教室の関係で昨年度に比べて金額がかなり伸びている部分について、始めた当初は、バレーボールの経験のある中学生を集めた教室だったが、昨年度から経験の有無を問わず全中学生に募集をかけた。そのため初めての子を教えるコースと、そこそこできる子を教えるコースとに分かれ

てしまって、今年度からスタッフの人件費分2割ぐらいが上乘せとなっている。このスポーツ運動教室は、あくまで令和10年の国体・国スポを視野に入れての事業なので、それをもって終了と考えている。

【事務局】

杖の関係は、正式に文書規程等を全部確認しないといけないので、議事事務局に話をさせていただきたい。

「広報あづみの」が見難いということは、秘書広報に意見として伝えさせていただく。

【委員】

バレーボールの教室のこともあるが、他のスポーツ関係の教室も今後なくなることを視野に入れているのか。

【事務局】

他のスポーツとは具体的にどういったスポーツのことと考えればいいのか。

【委員】

卓球であるとか、バスケットボールであるとか、色々なスポーツがあると思うが、ずっと今までバレーボールできているので、他のスポーツはいかがということ。

【事務局】

バレーボールに関しては、国体を視野に入れてこの事業を始めたので、国体が終わればこの事業は終わりとなる。他の競技については、各種団体のスポーツ教室とかスポーツ協会でも教室をやっているもので、市として特にこれに限ってというふうなことは今考えてはいない。そのときそのときの状況を見ながら、何かしらのスポーツを皆さんに楽しんでいただくような事業は開催していこうと思う。

【委員】

5年度は市誌編さんの作業で予算の半分くらいを使って活動され、今年度は市誌編さんが重点事業になっているが、そのあたりの説明をお願いしたい。それから市誌という表記だが、歴史の史なのか雑誌の誌なのか、混ざって書かれているので、どちらなのかということ。

【事務局】

市誌編さんの表記は、歴史の史ではなくて言偏の方である。

令和6年度の予算については、市誌編さんの民俗資料編のことを特に書いてある。安曇野市誌は一応民俗編、自然編、それから歴史関係では、原始・古代、それから中近世、近現代ということで考えている。このことについて、それぞれ本編と資料編ということで考えている。現在の進捗だが、民俗編を令和2年度から始めているが、なかなかコロナ等で調査が進んでいない。しかし、民俗資料編を5地域でそれぞれ書き分けているが、豊科編がやっとできたというところである。引き続き、他の地域も書くということで、執筆に関する費用で少し多めにもっている。今後、民俗資料編を引き続き書くとともに、昨年度立ち上げた考古部会でも調査あるいは執筆を進めていこうと思っている。まだまだ道は遠いが、少しずつやっていきたいと思う。

【議長】

まだ意見はあると思うが、一応このくらいしたいと思う。せっかく市役所の各担当係長がおいでなので、文化振興係長から新年度の事業等についてPRをお願いしたい。

【事務局】

来年度は豊科近代美術館の大規模改修工事が始まる。それと高橋節郎美術館と明科大人と子どもの交流学習施設の空調機器を中心とした改修を始めるので、よろしくをお願いしたい。

【事務局】

本日大学連携のことで美術だけでなく、音楽の合唱とか声楽についてもという話をいただいた。今後も学校との連携、アウトリーチの関係など来年度も力を入れてやっていきたい。また、様々な施設の改修等があるので、改修している間も、各施設での活動とか、改修が終わった後の活動等について計画を進めていきたいと思っている。

【事務局】

令和5年、6年、7年とかけて、安曇野市内にある文化財とか歴史的地域遺産というものを今後どのように確実に継承していくかということを考える地域計画というものを現在策定している。来年度は2年目になるので、アンケートやワークショップで行いながら、計画に反映していきたいと考えている。

【事務局】

図書館事業については、「デジとしょ信州」の利用促進ということで、電子図書館を推進している。令和6年度は小・中学校になるべく実質的に使っていただけるよう働きかけを積極的にしていきたい。

それから中央図書館開館から15周年という節目になるので、記念の講演会をしたいと思っている。

また、「読書支援サービス」ということで、障がい者に限らず高齢者の方たちの読書をいかに進めていくか、その視点から整備をしていきたい。

【事務局】

三郷公民館が来年度長寿命化工事を予定している。トイレの改修、外壁の改修等を計画しているが、工事によっては多少変更があるかもしれないので、よろしく願いしたい。